

Contents



○日本の将来を見据えた
3つのキーワード

○自民党地方政調会&現場視察



自民党地方政調会&現場視察

岸田文雄は自民党の政務調査会長として、地方の声を国政に直接反映すべく、地方において政調会を開く「地方政調会」を開催し、また被災地等を自分の目で直接確認し、現場の声を耳で直接聞くための視察を行っています。

特にここ最近においては、災害が多発していることもあり、現場に寄り添った対策が必要なため、現場で直接確認することが重要になってきていますし、また地方政調会においては憲法等をテーマに、地方の声の幅広い声をすくいあげるため、様々な多くの人達に集まってもらい、議論を各地で行っています。



神奈川県多摩川流域



埼玉県



神奈川県箱根町



広島県



茨城県



地方政調会in埼玉



地方政調会in広島



首都圏外郭放水路

岸田文雄後援会事務所

●国会事務所
〒100-8982 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1222号室
TEL (03) 3508-7279 (直通) FAX (03) 3591-3118

●広島事務所
〒730-0013 広島市中区八丁堀6-3
和光八丁堀ビル9階
TEL (082) 228-2411 (代表) FAX (082) 223-7161

●岸田文雄ホームページ
<https://www.kishida.gr.jp/>

ケータイ用サイトQRコード



岸田文雄プロフィール

昭和32年生まれ。早稲田大学法学部卒業後、(株)日本長期信用銀行等を経て、平成5年の衆議院議員総選挙において初当選。以後9期連続当選中。

自民党青年局長・商工部会長・経理局長、建設政務次官・文部科学副大臣、衆議院厚生労働委員長などを歴任後、平成19年の第一次安倍改造内閣において内閣府特命担当大臣(沖縄担当など)で初入閣。初代消費者行政推進担当大臣として消費者庁新設の土台を作る。

平成23～24年にかけて党国会対策委員長として国会最前線で指揮をとり、与党に対して厳しい国会追及を行い、解散に追い込む。

平成24年には保守本流の政策集団である「宏池会」の会長に就任する。

平成24年発足の第二次安倍内閣において外務大臣として入閣。以降4年8ヶ月の長期間外務大臣を務め、その間オバマ米国大統領広島訪問などを実現させ、連続期間・専任期間としては戦後最長の記録を立てる。また憲政史上初の外務大臣と防衛大臣を兼務。

平成29年自民党政務調査会長に就任。党の政策責任者として大きな期待と責任を担う。

岸田文雄フェイスブック

www.facebook.com/kishdafumio



日本の将来を見据えた 3つのキーワード

自民党政務調査会長
衆議院議員 岸田文雄

近年、大きな災害が続発するようになってしまいました。これを前に、政治としても多発する災害にしっかりと対応しなければなりません。この年末においては総理の指示に先だつて補正予算や予算編成そして税制改正に向けて議論を始めるよう政調会の会長代理と副会



自民党台風19号非常災害対策本部

長そして16人の各部会長に指示を出しました。

その中において、まずは今年続発した台風15号や19号をはじめとする大きな災害に対し、復興や復旧、なりわいと生活の再建は当然のことしながら、よりバージョンアップした改良復旧を求めていかなければなりません。昨年「今まで経験したことのない災害」とか「長年ここに住んでいるがこんな経験は初めてだ」などと、被災地を回るたびにそういう声を多く聞きます。こうした災害を前にして、現状復旧でとどまっていたとしても対応しきれません。あわせて、先に備えることの大切さを重視し、国土強靱化、防災、減災、こういった観点から今後の災害対策に取り組んでいかなければならないと考えています。

また大きな災害の背景には地球温暖化や気候変動などの大きな地球規模の課題もあります。こうした課題にも政治としてしっかりと対応しなければなりません。この年末にこのような災害対応の

党政策責任者として政権を支えてきました。経済政策についてもデフレからの脱却や経済の成長軌道への以降など、それなりの成果が上がっていると自負しています。

ただこれから先を考える場合に、日本経済の成長は軌道に乗りつつあると言いながら、「成長の果実」の分配という部分については色々と考えなければいけないと思っています。

また経済政策を考えても、アベノミクス3本の矢と言われましたが、政府と中央銀行がアコードという形で共通の目的を掲げて財政と金融を連動させて政策を進めていくことについては評価しますし、今しばらく続けなければならぬと思います。マイナス金利や財政は先進国の中でも最悪であること等を考え



衆議院予算委員会で質問に立つ

ると、財政・金融の一体的な取り組みを進めていながら時間的余裕を確保している間に、経済における生産性、特に潜在的な生産力をしっかりと高め、成長戦略を進めていかなければなりません。

社会保障政策についても少子高齢化、人口減少、人生100年時代が進む中、支え手がどんどんと縮小する中であつて、この世界に冠たる国民皆保険制度を持続可能な形で次の世代に引き継ぐためには、支え手をいかに拡大させていくのかを考えなければなりません。「選択できる社会保障」という言葉を自民党として使っていますが、こういった取り組みを進めて、持続可能性を確保していかなければなりません。

2つめのキーワードの「個性」と「多様性」についてですが、多様性が尊重されるからこそ、成長戦略でしっかりと結果を出すことができる、個性や多様性が尊重されてこそ社会保障制度の支え手を拡大することができる安心安全に繋がります。こうした個性や多様性に対する寛容な包容力のある社会を作っていくことが大事です。

また、目を国際社会に転じると、自国第一主義、あるいは保護主義、ポピュリズム、国の分断とか格差だとか、息苦しくなる状況が次々報じられています。このよう

議論を行い、補正予算を編成した上で、来年度の予算編成に全力を尽くして参りたいと思います。

今年の日本はラグビーW杯で大いに盛り上がりました。来年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックを迎えることとなります。私たちの国はこの国際的



ぶら下がり会見

なビッグイベントを目標に努力してきましたが、来年のオリンピック・パラリンピック開催で二つの時代の区切りを迎えることとなります。政治としてはその先の時代について考えなければなりません。東京五輪後の日本をイメージして、そのために今何をしなければいけないのか、補正予算や本予算や税制など来年度に向けての議論においても、そういったところも是非しっかりと考えてもらいたいと指示しました。

その中におけるキーワードとして、「持続可能性」「個性多様性の尊重」「地球規模の課題の挑戦」という3つを考え、必要があるのではないかと考えております。

1つめの「持続可能性」ですが、私も閣僚として今は与する国でありたいと思っています。そうしてこそ国際社会の中であつて日本が信頼され、存在感を示し、発信力を獲得できると 생각합니다。

持続可能性や個性、多様性、あるいは地球規模の課題、これらを念頭に、自民党政調会長としてしっかりと予算や税制や政策課題に取り組んでいきたいと思っています。政治の場でポスト東京オリンピック・パラリンピックの未来に向けた議論を行い、それを国民の皆様に見てもらい、聞いてもらい、日本の方向性を感じてもらうことは、国民がそれぞれの未来を考える上で大事だと思っています。そしてそれが政治の責任であるとして、今後とも引き続き努力していかなければいけないと感じています。



安倍総理へ災害対策本部からの申し入れ

な国際社会の中で、日本の国だけは個性や多様性について寛容で包容力のある社会でありたいとも感じています。

こうした多様性を保障するためにも、政治をはじめとする様々な分野における物事の決め方においては、よく「トップダウンかボトムアップか」という話がありますが、トップダウンばかりではなく、今一度、ボトムアップという手法も大事にしていかなければいけないと感じています。

3つめのキーワードは「地球規模の課題への挑戦」です。エネルギーや環境問題、核軍縮や平和の問題など、地球規模の課題はどんな大国であつても一国のみでは解決できません。こうした多くの国が参加し、協力しなければならぬ地球規模の課題に日本は取り組む能力があり、志を持つる国なのです。から、こういった地球規模課題をリード



定例記者会見



氾濫した多摩川の視察